

救急の日・救急医療週間特集

あなたの担う6分間 命をつなぐ救命手当

家にいるとき、外出しているとき、私たちはいつどこで、けがや病気に襲われるか分かりません。例えば、目の前で人が倒れたとき、救急車が到着するまでの間に適切な手当がおこなわれないと、場合によっては、命にかかわることがあります。

大切な命を救うために必要なのは、途切れることなく迅速におこなわれる手当の連鎖です。救急車が到着するまでの時間にあなたにできること。それが救命手当です。

119番通報があってから、救急車が現場に到着するまでの平均的な時間は、およそ6分。一方、「カーラーの救命曲線」によると、心臓が止まってしまった人が3分間放置された場合、その後の手当で助かる率は、およそ50%まで下がるとされています。

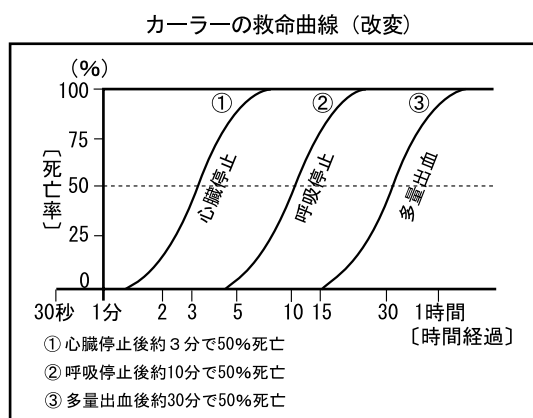


3分間が命とり カーラーの救命曲線とは

カーラーの救命曲線は、人間が呼吸や心臓の停止、大量の出血などの緊急事態に置かれた場合の経過時間と死亡率の関係を示したもので、1981年に仏のM・カーラー教授により報告されました。

例えば、心臓が停止した人が3分間放置された場合、その後の手当で助かる率は50%。

同様に、呼吸が停止した人の場合も、10分間放置されることで50%が助からなくなるといわれています。



資料：(財)救急振興財団「[改訂版] 応急手当講習テキスト」

救命手当の方法

1 意識を調べる

倒れている人の耳もとで声をかけ、軽く肩をたたってください。目をあけたり、何らかの反応があったりしたら「意識あり」。何も反応がないようなら「意識なし」と判断し、すぐに119番に通報し、救急車を呼んでください。

2 気道の確保・意識を調べる

意識がなかった場合、まずは気道を確保し、相手の呼吸を確かめます。

片手を相手の額に当て、もう一方の手の人さし指と中指で、あごの先を持ち上げてください。首などにけがをしていることが疑われる場合は、無理に頭を反らせず、首を左右にひねらないよう注意して、下あごのみを持ち上げます。

気道を確保したら、相手の鼻と口にはおを近づけ、すばやく呼吸を確認します。その際、相手の胸が上下しているかどうか、同時に確認してください。

呼吸音や呼気、胸の上下の動きなどが確認できなかつたり、あるいは不十分だったりする場合には「呼吸なし」と判断し、すぐに人工呼吸をおこないます。呼吸が十分ある場合には、楽な姿勢を取らせて、様子を見ましょう。